

第16回リバーフロント整備センター研究発表会



研究第一部 研究員 中西 宣敬

平成20年9月26日（金）、科学技術館サイエンスホール（東京都千代田区）にて「リバーフロント整備センター研究発表会」を開催しました。

この研究発表会は、当センターの水辺空間に関する調査研究の成果と最近の話題を紹介し、河川技術者の啓発の場とすることを目的に年1回、「リバーフロント研究所報告」の刊行にあわせて開催しています。今年は第16回目の開催となり、国土交通省や自治体関係者、学識者等、184名が参加されました。多数のご参加ありがとうございました。

発表会の講師には、北海道大学教授の中村太士氏をお招きし、「川の健康診断－水質から生態系評価へ」と題して、第3次生物多様性国家戦略による生物多様性の危機の状況の地図化の取り組みや、生物生息環境に不可欠なく乱を模倣する取り組み等のご講話をいただきました。

また、研究発表として、昨年度当センターで実施した、次の9題の研究発表を行いました。

7. 鬼怒川中流部における礫河原再生について（中間報告）
8. 海岸情報の収集・共有化に関する研究
9. 物理環境からみた全国河川の状況

なお、この研究発表を含めた昨年度の調査研究の成果は「リバーフロント研究所報告 第19号 2008年9月」に取りまとめで発刊するとともに、既に発行している過去の報告を含めて、当センターホームページ「リバーフロント研究所報告」にて検索が可能ですので、是非ご活用下さい。

(<http://www.rfc.or.jp/rp/index.asp>)

ご参会の皆様からいただいた様々なご意見等を踏まえ、当センターは今後も河川に係る諸問題への調査研究等を通じて社会へ貢献するべく、取り組んでいきたいと考えております。

○研究発表の内容

1. 河川を活かしたまちづくりの成功要因について
2. 肱川の河畔林の現状と今後の保全・整備手法
3. 渡良瀬遊水地における湿地保全・再生（植生再生実験）
4. アジアにおける河川環境再生の動向と国際ネットワーク構築の取り組み
5. 多自然川づくり普及・推進に関する検討
6. 大規模所有地に着目した新たな高規格堤防事業候補地の調査・検討について



中村教授のご講演



当センター職員による研究発表